

AMDA

多様性の共存

ジャーナル

2010年4月25日 VOL.33 第250号 定価550円
発行/AMDA 〒701-1202 岡山市北区橋津310-1
TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
E-mail:member@amda.or.jp2010年
4月号

4

緊急救援 救える命があればどこへでも

チリ地震被災者に対する緊急医療支援活動

～津波被害が大きかったコンスティツシオンにて～

看護師 石岡 未和 (派遣期間: 2010年3月14日～4月2日)

特定非営利活動法人アムダ (AMDA)
http://amda.or.jp/
特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
http://www.amda-minds.org/
特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
http://amda-imic.com/

3月9日、第1次チームでチリ地震被害調査に赴いた森田調整員を通してAMDA本部からチリ地震緊急医療支援活動への看護師派遣要請がありました。森田調整員とは青年海外協力隊時代にドミニカ共和国の保健プロジェクトで共に働いていた経緯があります。

第1次チームの調査の結果、チリ政府の対応は迅速であるもののアクセス困難な地方にはまだ支援が不足していることが分かり、津波被害が大きかったコンスティツシオンでの、災害弱者である2歳以下の乳幼児への物資配給と乳幼児健診を目的とした短期間のプロジェクトが実施が決定され、その実施要員として派遣されることになりました。3月11日M7.0の大きな余震があり、再び崩れる建物、人々が恐怖でパニックに陥った様子など、森田さんから伝えられる現地の生々しい様子を聞いて、今後も予断を許さない状況であることを覚悟しました。

サンチアゴ到着後の17日、タルカへ出発。タルカが近づくにつれ、幹線道路の破損、建物の倒壊被害が多くなり、首都との被害の違いが大きくなっていきました。タルカでは、夜間外出禁止令が出されていて、街の入り口には銃を抱えた警察や軍隊が検問をしており、到着が夜遅かったこともあって、周囲は物々しい雰囲気でした。18日は、物資の移送・安全確保をしてくれるタルカ軍基地を訪問し、ホセ中佐とミーティング。プロジェクト実施日が23日に決定しました。午後からコンスティツシオンへ行き、協力先のアウトセロ診療所で現地スタッフとミーティングした後、コンスティツシオン全体の様子を視察。津波被害は想像以

上に大きく、海岸付近一帯は瓦礫の山と化していました。その瓦礫の中から物を探す人々の姿やキャンプ生活を余儀なくされている人々も多く、津波被害の深刻さを物語っていました。壊滅的な被害を受けた漁村地区で、家の柱以外の一切を失った夫婦に出会いました。明るく私たちの訪問に応じてくれた彼らですが、「恐怖をぬぐい去るために笑っているのよ。」といった婦人の言葉が心に深く刻み込まれました。

23日乳児支援プロジェクト実施当日。ラ・セレーナ基地から緊急要請された軍の部隊が、朝6:45に私たちのホテルへ。訓練で徹底された彼らの時間管理・仕事ぶりは素晴らしく、中南米で一番の技術を有するといわれる所



集団保健指導の一コマ

以を納得しました。物資を大型トラックに詰め込み、他2台のジープと計3台、総勢15名でコンスティツシオンへ。到着後、軍・診療所スタッフ全員でのミーティングを行い、診療所が抽出した100名の乳幼児リストに従って、診療所内と診療所外を巡回する3グループに分かれて、物資配給・乳幼児健診を実施。当日はサンチアゴからボランティア派遣されている医療団も加わり、大所帯での実施が実現しました。流れとしては、看護師が乳幼児の体重・身長を測定し、成長曲線で栄養・発育状況を観察し、全身状態も合わせて観察した後、物資配給と保健指導をします。他の医療スタッフや軍が補佐



被災地の婦人に乳児支援について語る筆者(右)

をします。幸い、栄養状態に極度の影響をきたしている子供はいませんでした。しかし、キャンプ地や街の中心から離れた田舎へ行けばいくほど、居住環境が悪くなること、また震災後4週間が経過し亜急性期に入り感染が懸念される時期になるということから、アフターフォローとして集団保健指導を実施することとしました。実施場所には、訪問した中で衛生環境が悪かった場所を選びました。25日、診療所の看護師たち、サンチアゴからのボランティア医療団と共に集団保健指導を3か所で実施。基本的な手洗いを元に協力隊時代に制作したビデオを使って、子供から大人まで楽しく学べる内容としました。手形のお面をして、歌や動きを多くし、被災で落ち込

む人々に少しでも明るい時間を提供できたら…という想いでした。短期間でやれることには限界があります。しかし、ここまで、スムーズな実施ができたのは、森田調整員の驚くような調整力、素晴らしいAMDA側スタッフ、現地スタッフに恵まれたからだと思います。国境、職業、社会的地位、宗教の壁を越えて人間としてつながった和を感じることができ、涙々の経験でした。今回、関わってくださった全ての方々に感謝しています。

派遣前はハイチ地震で頭がいっぱいでしたが、チリに赴き、被害の違いに関わらず被災者の辛さはみな同じだという事、当たり前のことですが忘れずにいたいと思います。

チリ地震被災者緊急医療支援活動 「乳幼児支援プロジェクト」

第2のふるさとチリでの地震を通して

大和 玲子(派遣期間:2010年3月14日~4月2日)

2010年3月14日(日)15時成田を出発し、チリ時間で3月15日(月)早朝6時に首都サンティアゴに到着する。今回は、チリ地震緊急医療支援第2次チームとして赴任させていただいた。

チリは、日本から、直線で1万7千万キロも離れた、地球の反対側にある。私が、初めてチリに来たのは、丁度3年前。JICAの青年海外協力隊の看護師隊員として、派遣された国である。チリに初めて降り立ったときの感想は『すごい、大きな都市』、首都サンティアゴは、地下鉄や高層ビル街があり、一日で経済活動が活発であることが分った。北部は銅の資源に恵まれ、中部はチリワインの産地、南部はサーモン養殖(現在はウィルス感染により閉鎖されているところが多い)、とても日本と結びつきが強い国である。

2010年2月27日午前3時34分、マグニチュード8.8の地震が発生。たまたまニュース速報でこの事実を知ったとき、体が震えたのが今でも忘れられない。私が以前住んでいたところは、第8州ビオビオ県ニウエ村(コンセプションから北西95km、車で2時間の所)で震源地がとても近い。(震源地は第8州コンセプションから北北東へ115km)脳裏に、チリの家族、友人、配属先であった診療所のスタッフの顔が浮かぶ。チリは、ここ数十年で経済的に急成長をしているものの、依然地方と都市部との格差があり、私が2年活動していた地域も、人口5500人の村で決して経済的に豊かな

地域ではなかった。そのような地方には、アドベと言われる土レンガの出来た古い家がまだ残っており、今回の地震で建物が倒壊しているのは、このアドベの家がほとんどであった。震災後、5日経ち、ようやく携帯の電波もつながり始め、電話で直接安否を確認することが出来た。そのころ、AMDAで第一次チームが出発していたことを知った。『どんなカタチにせよ、チリの人々に恩返しをしたい』日本で義援金活動を始めようとしていた出発の4日前の3月10日に、2次チーム派遣にAMDAよりお声をかけていただいた。何よりも、今回のAMDAの緊急プロジェクトの対象が、乳幼児という点で、今回のプロジェクトに参加できるというすばらしい機会にめぐり合うことができたことに感謝している。

首都サンティアゴにて、3月15日、第一陣でチリ入りしていた森田調整員、AMDAペルススタッフのアウグスト氏、日本からの第二陣メンバーの石岡看護師と私、あわせて4名のメンバーが初めて対面した。余震も続く中、森田調整員から調査状況を聞いた。3月15日から首都サンティアゴにて物資調達開始。首都サンティアゴは、地震から2週間が経ち、古い教会の倒壊姿があるものの、人々は、日常の生活リズムを取り戻しつつあるように見えた。が、被災地コンスティツションは、震災から20日経っていても、瓦礫も残ったままのエリアも多く、まるで震災後時が止まったかのように感じられた。急性期は過ぎたように感じ



プロジェクト実施チーム(前列左:筆者)

るものの、以前のような港、観光地の活気は無い。

今回の物資配給と同時に行った乳幼児健診では、地震の影響による低栄養状態の乳幼児は少なかった。しかし、夏の時期の水不足、震災後の衛生面を考えると、感染なども懸念されるので、3月25日には診療所スタッフ、チリ国内の緊急医療隊、AMDAと手洗いビデオを主とした手洗い講座を実施した。このビデオは、一緒に同行していた石岡看護師の作品でとても分りやすく、たのしく歌って踊りながら学べる教材である。石岡看護師から「震災後だからこそ、このような笑いも大切だと思う」その言葉に心打たれた。

今回のプロジェクトは終わったが、震災後の人々の心の痛みを癒すには、もっと時間がかかる。私が以前住んでいた村の診療所の救急室での出来事。小さな余震が続き、大きな余震後、一人の女性がやって着た。パニック状態に陥っており、一人で歩くのもやっとな様子。家族に付き添われながら、泣いていた。鎮痛剤投与後、家族と一緒に帰宅。私は、胸が詰まる思いだった。これからやってくる厳しい冬のことを考えると、一刻も早い復興を願わずにはいられない。今回のチリ地震緊急医療支援活動をひとつの節目とし、これからも私の第二のふるさと、チリの復興にかかわっていきたいと思っている。いつまでも寄り添うこと。物質的な緊急援助ともうひとつ大切だと感じている、寄り添う心、いつまでも励まし続ける心は、チリを去っても、忘れずに持ち続け、行動していきたい。今回、このようなプロジェクトに参加し、新たに多くの人々との出会いがあった。心から、その出会いに感謝しています。本当にありがとうございました。

チリ地震被災者に対する緊急支援活動

2月27日午前3時34分(日本時間午後3時34分)ごろ、マグニチュード(M)8.8の強い地震が発生。米地質調査所によると、震源はコンセプション(ビオビオ州の州都)の北北東117キロ付近、タルカの西南西99キロ付近。M6クラスの余震が続いた。

〈派遣者〉

第一次チーム:実態調査からプロジェクト立ち上げまで

3月2日成田発、3日ボリビアサンタクルス着、3人のチームとして合流。5日(現地時間)チリ・サンティアゴ空港到着。

津曲 兼司 医師 AMDA 多国籍医師団上級顧問

森田佳奈子 調整員 元青年海外協力隊員 ドミニカ共和国派遣 08年1月~10年1月

パトリシカ 心理カウンセラー AMDA ボリビア支部

第二次チーム:プロジェクト実施

成田から3月14日発、15日早朝(現地時間)チリ・サンティアゴ着。アウグスト調整員も15日着、サンティアゴで合流。

石岡 未和 看護師 元青年海外協力隊員 ドミニカ共和国派遣 07年6月~09年6月

大和 玲子 看護師 元青年海外協力隊員 チリ共和国派遣 08年1月~10年1月

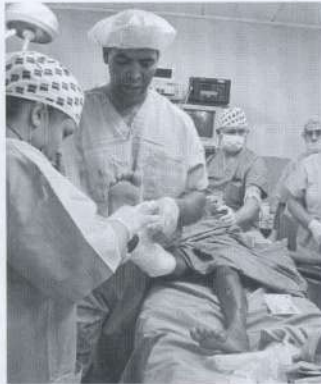
ペンダガスト アウグスト 調整員 AMDA ペルー支部

ハイチ地震被災者への義肢支援プロジェクト開始

AMDA グループ代表 菅波 茂

2010年1月12日(現地時間)に発生したハイチ大地震は22万人の死者と220万人の被災者をだした。AMDAは日本、カナダ、ペルー、コロンビア、ボリビア、ネパールそしてインドの7ヶ国から合計30名の整形外科医や外科医を主体とした多国籍医師団を2ヶ月間にわたり派遣した。ハイチ全体で4千人の被災者が骨折などの原因で四肢を切断している。ハイチ復興計画で、国連が各国に要請している支援項目に義肢がある。残念ながら、国の統治機構が崩壊しているために、国際社会からの支援も被災者にはなかなか届きにくい現状である。

AMDAはハイチ被災者に対して義肢支援センターの開設と運営を決定した。対象数は3百名。2百名はハイチ人で百名はドミニカ共和国の人である。ハイチ被災者四肢切断者4千名の5%になる。義肢支援センターの場所はドミニカ共和国のハイチ国境沿いの町エリアスピーニャにあるローサ病院である。義肢支援センターの責任者となるのは、義肢製作者として2年間ドミニカ共和国に派遣されていた、元青年海外協力隊員の八尾直毅氏である。首都のサントドミンゴでは、同じくドミニカ共和国に派遣されていた元



ゴナイブ病院で手術するコロンビア・カナダAMDA支部合同チーム(左)。両足切断の被災患者(右)



青年海外協力隊員の、森田佳奈子氏が調整員の任にあたる。八尾氏には、AMDAのハイチ大地震被災者救援活動中に、義肢支援センター設立の可能性の調査に協力していただいた。森田氏にはハイチ大地震に続いて発生したチリ大地震被災者救援活動に調整員として卓越した手腕を発揮していただいた。両者に情熱あふれる若者である。義肢支援センターは2年後に地元のNGOに寄贈し、義肢利用者のアフターケアを継続する予定である。

AMDAは今までに難民や災害被災者救援医療活動を実施してきたが、義肢プロジェクトの経験は全く無い。アフガニスタンやカンボジアなどの国々には地雷により義肢を必要とする人たちがたくさんいる。日本にはこれらに人たちに対して実績のある優れ

たNGOが数多くある。加えて、AMDAにはその余裕も無かった。しかし、今回は事情が全く異なっている。AMDA多国籍医師団は救命のために多くの被災者の四肢を切断せざるを得なかった。四肢を切断された被災者は命が助かって、最貧国のハイチでは極貧の生活が待っている。自問自答していた。幸いにも、救援医療活動中に、八尾氏などの義肢プロジェクトに不可欠な人たちと現地で知り合うことができた。ドミニカ共和国政府の合意も得られそうである。

AMDAはハイチ大地震被災者に対して三つの支援事業の継続を決定した。義肢支援センターの設立と運営、野球やサッカーなどのスポーツ導入による復興支援、そして雨季に予測される災害医療支援である。日本から遠く離れたカリブ海の国に対する支援事業であるが、成功の自信はある。根拠は3つある。一つはAMDA中南米支部の結束力である。二つ目は八尾氏や森田氏などの若い世代の情熱である。三つはAMDAのハイチ復興に支援をしてくださる方々の存在である。AMDAが挑戦するハイチ地震被災者義肢支援センタープログラムに暖かいご理解とご支援をよろしくお願い申し上げたい。

ハイチ緊急救援活動に参加して

特定非営利活動法人AMDA 社会開発機構 調整員 鈴木 梓

ラス・アメリカス国際空港へ降り立つと、そこで再会を喜ぶ多くのドミニカ共和国の人々からは今回の地震の影響は全く見られず、同じフライトで到着した他国からの支援団体グループが、緊迫した表情で大きな荷物を抱え移動する姿を目にして身の引き締まる思いがしました。ハイチの空港が閉鎖されたため急遽変更したドミニカ共和国首都サントドミンゴで私にとって初めての緊急救援活動が始まったのです。

2010年1月12日(現地時間)、ハイチで発生した大地震による被害を受けて、医師・看護師各1名、私を含めた調整員2名が第1陣として派遣され、1月16日にサントドミンゴへ到着しました。1日の準備時間を経て、18日には私を除く3名がハイチ国内サンマル

クへ移動後、医療活動を開始し、ロジスティック拠点としたドミニカ共和国に残った私は、AMDA本部や現場との連絡調整や後続医療チーム受け入れ態勢確立をはじめとした後方支援活動を進めていくことになりました。

現場に入り被災者の方々と直接関わる活動ができない私はもどかしい思いもしましたが、反対に、隣国から客観的に活動を見ることができました。またAMDA各国から参加した医療チームを受け入れることにより、彼ら彼女らの人となり垣間見ることができ、その初めて顔を合わせたメンバーたちをAMDAチームとしてハイチへ送り出す、という興味深い役割を担うことができたのは貴重な経験だったと思います。

海外で活動する際には常に感じるこ

とですが、特に今回の緊急救援活動では、11日という短期間で非常に多くの人々に支えられ、人との繋がりの重要性をより強く実感しました。日本および海外とのネットワークがどんどん拡がり、直接面識のなかった方々が次々と協力を申し出て下さいましたし、スペイン語を解さない私の単語、絵、身振りによる「訴え」をドミニカ共和国の人々は辛抱強く理解しようと努めてくださいました。全く見知らぬ国であるドミニカ共和国に一人残った私にとって、こういったご支援は非常に心強いものでしたし、渡航前準備期間がほぼ確保できない緊急救援活動においては、このようなご協力なくして活動は不可能であることも学びました。今後も、人との繋がりを大切に、「困った時はお互いさま」の気持ちを持って国際協力活動を続けていく中で、回り回って今回助けてくださった方々に恩返しができると思います。

広島大学大学院国際協力研究科と
連携協力協定締結



2009年2月4日、AMDAと国立
大学法人広島大学大学院国際協力研究科（IDEC）との
間で協定書が交わされました。この協定は、AMDAと
IDECが、平和、環境、教育・文化、医療・保健等の国際
協力分野において、連携協力し、地域社会及び国際
社会への知的貢献と人材育成に寄与することを目的と
しています。

この協定により、主に平和構築・国際協力分野に関
する共同研究、IDECからAMDAへのインターンや緊
急支援活動要員の受け入れ、講師の相互派遣等の交流
が期待されています。

広島大学大学院国際協力研究科：

<http://www.hiroshima-u.ac.jp/idec/>



サモア諸島地震津波被災地への支援活動

2009年10月に発生したサモア諸島津波被害に対して、AMDAは緊急支援として、地元のメドセン病院へ医薬品を提供しました。その後の被災地の復興調査と支援に、2010年2月再び本部から調整員が赴き、被災地アピア地域の小学校と幼稚園あわせて7校に学用品を、メドセン病院に医療用品の贈呈を行いました。

2010年2月～3月の動き

＜講演＞		
2月18日	中央区立常盤小学校	心と命の授業
2月24日	新潟大学国際戦略本部	第5回G1S国際シンポジウム
2月27日	関西学院大学災害復興制度研究所	ハイチ大地震報告会
3月5日	岡山市立光南台中学校	国際理解協力 (AMDA) 講演会
3月6日	加計学園・倉敷芸術科学大学	市民公開講座「もっとあった救える命」
3月23日	倉敷市環境衛生協議会玉島地区協議会	AMDAの活動報告
3月27日	総社市・総社市教育委員会	駐日ブラジル大使来総記念フォーラム
＜学生・児童の方々への本部訪問＞		
2月19日	4校キラリ (井原高校、笠岡商業高校、笠岡工業高校、岡山龍谷高校)	
2月26日	笠岡市高等学校VY S連絡協議会 (笠岡商業高、笠岡工業高、笠岡高校、岡山龍谷高)	
3月8日	高梁学園吉備国際大学ボランティアセンター	
3月11日	岡山市立馬屋下小学校	
3月19日	岡山市立中山中学校生徒会	
＜イベント＞		
2月6日～7日	ワンワールドフェスティバル	
3月5日～7日	岡山県洋蘭展 (写真右)	
3月6日	RSKチャリティコンサート	

● AMDA クラブ

- AMDA 鎌倉クラブ (神奈川県)
- AMDA 高知クラブ (高知県)
- AMDA 福山クラブ (広島県)
- AMDA 竹原クラブ (広島県)
- AMDA 神女クラブ (兵庫県)
- (神戸女子大)
- AMDA 玉野クラブ (岡山県)
- AMDA 夕張クラブ (北海道)

● AMDA 支部 (国内)

- AMDA 神奈川支部
- AMDA 兵庫県支部
- AMDA 沖縄支部

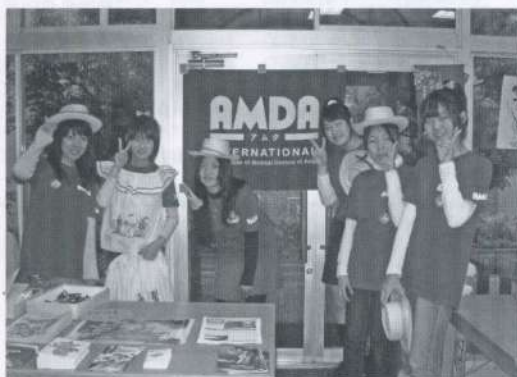


アマダ高校生会は高校生のボランティアグループです！

世界の様々な問題に目を向け、行動することで自分の視野が広がります。あなたも国際社会の一員です。国際協力に興味のある人大歓迎！

AMDA 高校生会 (アマダ本体内)

お問い合わせは kizuna@amda.or.jp まで！



「AMDA 高校生会 2009 年度活動 岡山大学鹿田祭」

AMDA 高校生会 2009 年度年表

2009 年	
4 月	あすか健康村フェスティバルに参加 (茶山亭にて) 高校生会向けセミナー「AMDA の国際人道支援活動と相互扶助」開催 (アマダ本体内にて)
5 月	高校生会パンフレット作成
7 月	エイズ予防啓発の小冊子の原案作成
8 月	エイズ予防啓発ストラップデザイン原案作成
9 月	岡山県立一宮高校、岡山県立朝日高校、岡山県立笠岡高校文化祭で AMDA の活動パネル展示、募金活動
10 月	国際貢献「はじめての歩」セミナーで高校生会活動発表 (岡山県国際課主催) 街頭募金活動参加 (RSK キャンペーン) 「PEACE for the children- 地域、そして戦場～」
11 月	岡山大学鹿田祭 - AMDA 活動パネル展示・小冊子配布 ワトト チルドレンズクワイアコンサート - エイズ小冊子配布、パネル展示 ファジアーノ岡山ホーム最終戦 - ストップエイズメッセージ入り携帯ストラップと小冊子配布
2010 年	
2 月	街頭募金活動参加 (RSK キャンペーン) 「PEACE for the children- 地域、そして戦場～」
3 月	活動参加 (RSK キャンペーンチャリティコンサート) 「PEACE for the children- 地域、そして戦場～」

「もったいない」から始めたこと

支援バザーの会 野崎 泰子

京都の西、洛西ニュータウンの町内一隅で町内文庫活動をする仲間が、文庫の本を増やしたいために始めたことは、“まだ使える不用品”を持ち寄ったガレージセールです。約30年前なので、世の中にフリーマーケットがはやる前のことでした。



収益で本を買っていたのですが、本棚も限られているので、途中からは、団体・施設・被災地への送金をはじめ、17年間でその額は約580万円(年間6~9回開催)。10年前からは“○○のために”と目標を決め、災害があるたびに支援してきました。バザーは諸条件が整わないとできないので年二~三回、募金だけはずぐできるので取り組んでいます。ボランティアするメンバーも地域が広がり人数も増え、スーパーマーケットは会場無料、新聞販売店は印刷無料、リサイクル品だけでなく新品も…と変化し、10年で300万円となりました。



ニュース映像が生々しく伝わる中、「募金してあげたいけどわざわざ送金するのが面倒」と思う人たちは、沢山いらっしゃる。そんな中、長期にわたり地元でこの活動をする顔見知りの人たちに協力し、募金してくれる人が多いのだと思います。この記事を読んだ方が、マータイさんの“もったいない”を実践し、収益を寄付する仲間が増えることを期待します。

2009年度も多くの方々にご支援いただきました

3月にご寄付の贈呈をくださいました方の中から一部ご紹介します。



池田動物園 様



高梁学園ボランティアセンター 様



中国補聴器センター 様

大和ハウス工業健康保健組合様より今年も医療用品を贈呈いただきました



笠岡市高等学校 VYS 連絡協議会 様



4校キラリ 様

■ AMDA の活動にご支援のお願い

ご寄付の際には郵便払込取扱票をご利用ください。

※郵便振替

口座番号 01250-2-40709

口座名 特定非営利活動法人アムダ

※e-バンクからのご寄付も受け付けております。

詳しくはホームページをご覧ください。

<http://amda.or.jp>



RSK 山陽放送 様

緊急救援活動への参加を希望される方の登録制度 AMDA「ER ネットワーク」のご案内

自然災害、紛争等による被災者に迅速に対応するため、登録制度「ER ネットワーク日本」を整備しています。

緊急支援活動派遣を希望される方(医師・看護師・助産師 他)は、登録をお願いします。なお、ご登録者には緊急救援活動の際にお声をかけさせていただきますが、ご登録により活動参加義務が発生することはありません。登録に関する問い合わせは、下記をお願いします。

特定非営利活動法人 アムダ : AMDA

〒701-1202 岡山市北区橋津 310-1

TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959

E-mail:member@amda.or.jp

中国四川省地震被災地への支援 / 新型インフルエンザ対策

ニティアン ヴィーラバグ

大震災から1年たった2009年5月、AMDAは、震災一周年記念事業として、被災地での保健活動を計画しましたが、新型インフルエンザ(H1N1型)の発生に伴い、多数の大人や児童生徒を一箇所に集めることのリスクを憂慮した中国政府の要請を受け、計画は延期となりました。ようやく2009年12月に許可が出、実施いたしました。AMDAも新型インフルエンザの医療活動に集中することとし、震災被災地域の児童生徒に的を絞って保健活動を行うこととしました。

四川省中医薬科学院(SACMS)と協力して、2008年の地震で大きな被害を受けた3つの主な学校を訪問し、保健活動を行いました。これらの地域では、ほとんどの学校が全壊または半壊し、未だに復旧は完了していません。しかしながら、被災者、特に住民の暮らしはほぼ平常に戻っています。医療活動は、2009年12月13日から22日にかけて、次の4つの方法により実施されました。



子どもたちの検診を行うAMDAスタッフ

① 中学校の生徒に対する健康診断

AMDAは、四川省広元市(グアンユェン市の山西(サンセイ)中学校で生徒の健康診断を行いました。広元市病院の医師12名と看護師6名から成るチームが、1183人の生徒について、身長、体重、血圧、視力、色覚、聴力の測定と、歯科、咽頭、内科検査を行いました。その結果、なんの異常も無かった生徒は全体の11%で、ほとんどの生徒に色視症、近視、単純性甲状腺腫、中耳炎、色覚異常、扁平足、肥満、貧血などの症状が見られました。

② 新型インフルエンザ(H1N1型)への対策と啓発活動

新型インフルエンザ感染防止の重要性を認識したAMDAとSACMSは、2つの学校で、児童生徒に、保健指導活動を行いました。上級研究員でSACMS発行の医学雑誌の編集にも携わるジャン・トンユン博士が、同僚4人の支援を受けて啓発活動に取り組みました。広元市の山西小学校と、都江堰(トゥジャンイェン)の沿江(イエンジャン)小学校から、合計約800人の児童生徒が参加しました。セッションのあと、2つの小学校に新型インフルエンザ(H1N1型)に効



新型インフルエンザ予防活動に参加した子どもたち

く漢方の錠剤を寄付しました。この保健活動は子どもたちにも先生方にも大好評で、AMDAとSACMSはたくさんのお褒めの言葉をいただきました。子どもたちは感謝の印としてAMDAに手作りのカードを贈り、お礼状を読み上げてくれました。

③ 被災地域の学校への体温計の寄付

AMDAはまた、多くの学校に体温計を贈りました。インフルエンザ流行の広元、都江堰、南充、ペンズルーズ等多くの学校に計325本、都江堰と成都(チョンドウ)の保健所に25本入りずつ贈呈しました。

以上のような新型インフルエンザ対策の活動に加えて、AMDAは、小学校の子どもたちに本を贈りました。3種類の本が学生ボランティアにより、日本語から中国語に訳され、都江堰の沿江(イエンジャン)小学校で生徒代表が受け取りました。子供たちはとても喜び、先生の指導を受けながらすぐに本を読み始めました。

AMDA 速報
2010年4月15日

中国青海省地震被災者に対する緊急医療支援活動開始

中国青海省の玉樹チベット族自治州玉樹県で14日午前7時49分(日本時間同8時49分)に発生した地震で国営新華社は15日未明、死者数が589人に達したと伝えた。現地では気温が氷点下まで下がり、テントなどで夜を過ごした避難者は厳しい冷え込みと強風に見舞われた模様である。

AMDA本部からヴィーラバグ・ニティアンが調整員として本日岡山を出発し、16日朝関西空港から中国成都空港に入る。2008年の四川省地震で緊急医療支援活動とともに実施した医療施設「四川省中医薬科学院」等の関係機関からさらに詳細な情報を入手し、ニーズ調査のもと活動の準備を行う。

【日本からの派遣】 ヴィーラバグ・ニティアン Veeravagu Nithian 調整員 (AMDA本部職員 岡山市在住)

【皆様からの募金を受け付けております】

●郵便振替: □座番号 01520-2-40709 □座名「特定非営利活動法人アムダ」

通信欄に「中国地震」とご記入下さい

●e-バンク: ロック支店 202番 □座番号 7002547 □座名 トクテイヒエイリカツドウホウジンアムダ

●クレジットカード募金: AMDA全日信販カード: <http://amda.or.jp/content/content0001.html>